

『こんにちは県議会です』高校生との意見交換会」開催概要

- 1 開催日時 令和7年12月15日（月）午後1時から4時まで
- 2 開催場所 長野県庁 議場及び講堂
- 3 参加者
 - 県下10高校の生徒20名（「生徒が主体性を育む交流会（10/5実施）」参加者）
参加生徒・・・須坂、長野南、松代、諏訪清陵、下諏訪向陽、岡谷東、伊那北、飯田、塩尻志学館、梓川
 - 依田明善議長、中川博司副議長（広報委員長）
 - 広報委員
早川大地議員、小林陽子議員、小林あや議員、勝山秀夫議員、藤岡義英議員
 - 会派選出議員
寺沢功希議員、丸山寿子議員、奥村健仁議員、勝野智行議員、和田明子議員
- 4 開催内容
 - （1）議場説明
 - （2）【第1部】高校生による意見発表（模擬県議会）
《テーマ》
 - ・地域のかかわりと学校の統廃合について
 - ・高校生も巻き込んだ交通の将来設計について
 - ・高校生ができる防災 ～二次災害 予防の視点から～
 - ・高校と生徒会のあり方
 - ・「かえること」と「のこすこと」
 - （3）【第2部】意見交換会
（2）のテーマについて意見交換、意見・感想等の発表



○ 開 会

(中川副議長)

ただいまから「『こんにちは県議会です』高校生との意見交換会」を開会いたします。

本日の司会を務めます、長野県議会副議長、広報委員会の委員長をしています中川博司と
います。どうぞよろしくお願いします。

○ 議長、長野県学校長会長あいさつ

(中川副議長)

はじめに、長野県議会を代表して、依田明善議長より挨拶を申し上げます。よろしくお願いします。

(依田議長)

皆さん、こんにちは。ただいま御紹介いただきました長野県議会の議長を仰せつかっております依田明善と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、「こんにちは県議会です」の開催にあたりまして、県下各地より大勢の高校生の皆さんに参加をいただきまして、誠にありがとうございます。

また、長野県高等学校長会の皆様には、多大なる御協力を賜りまして、厚く御礼を申し上げます。

さて、先ほど傍聴席で、広報担当の議員から、大変盛り上がっておりましたけれども、議会についての説明を聞いていただいていたかと思いますが、皆さんは県議会に対してどのような印象をお持ちでしょうか。

堅苦しいとか、難しそうとか、いろいろな印象をお持ちだと思いますが、話し合う内容というのは、例えば教育だとか、交通問題だとか、災害の問題だとか、あるいは地域活性化、福祉、環境などの地域の課題や県政への提言など、皆さんの生活にも関わる大切なことが数多くこの議場で議論されております。

本日は、この皆さんのような若い世代の方々に、もっと県議会について知っていただきたいと考えまして、昨年に引き続き、この議場において、皆さんに意見発表をいただく模擬県議会を企画させていただきました。

これからの長野県を担う皆さんの意見発表をお聞きしたり、それから、直接意見交換のできる大変貴重な機会ということで、我々議員もとても楽しみにしております。

皆さんの中には既に選挙権を持っておられる18歳の方もいると思いますが、25歳になれば市町村長や、我々のような県議会議員、それから市町村議会議員や衆議院議員に立候補することができます。これからの時代をつくる主役は皆さんです。皆さんにも本日の経験をきっかけに、ぜひとも県議会や県政への関心を一層深めていただきたいと強く願っております。

本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

(中川副議長)

ありがとうございました。

次に、長野県高等学校長会を代表して、飯田高等学校長の服部靖之会長より挨拶を申し上げます。ちなみに服部さんは、ついこの間まで私たちと一緒に県庁で働いておりました。

よろしくお願いします。

(服部長野県高等学校長会会長)

皆さん、こんにちは。ただいま御紹介いただきました長野県高等学校長会会長を務めております飯田高校の服部と申します。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

また、依田県議会議長様、中川副議長様をはじめ、県議会議員の皆様、本日は大変お忙しい中、また議会閉会直後ということで、大変お疲れの中このような会を設けていただき、本当にありがとうございます。

学習指導要領が2020年に変わって、「主体的・対話的で深い学び」という言葉は、もう学校現場では当たり前のように深めているという中でありますが、実際にそういった学びを受けて、自分の成長とか、そういったことを皆さんがどう実感しているかということ、まじまじと今日は見させていただきたいと思っています。生徒自らが興味関心を持って粘り強く取り組む、生徒同士が協働する、さらには教職員や地域の方々、そして今日のような県議会議員の皆様等との多様な他者と出会い、対話を通じて、自分の考え方をぜひ広げてほしいと思っています。さらには知識を相互に関連付けて、より深く理解するという貴重な機会になろうかと思っています。

こうした学びを実践することで、自分自身で問題解決ができるようになることもあるでしょうし、他者との対話を通じて自分なりのアイデアや考えを持つことができるようになります。そのことは、例えば、皆さんの学校では県立高等学校の特色化推進事業をやっていると思いますが、そうした中で、生徒一人一人の取り組む姿からも感じ取ることができると思っています。

例えば、飯田高校では、特色化に向けた二つの柱を据えています。一つは、南信州の魅力や課題を深く知り、地域の皆さんと共に課題解決を目指しながら、新たな学校の可能性を追求すること。もう一つは、他者への温かなまなざしを持ち、対話力を磨いて世界に翼を広げること。こうした2点を学校の特色化の柱に据えながら、探究活動により生徒が主体性及び協働性を磨き、地域連携の深化に新たな境地を開こうとしているところであります。

そうした中で、生徒たちが様々な直接体験を通じ、その中で他者を尊重したり、思いやりを持って行動する心、自己のアイデンティティを確立しながら個性を大切にできる。こうした変化の姿を私も日々見させていただく中で、生徒の皆さんの成長とポテンシャルの高さを感じているところであります。テストの点数のような客観的に見える力ではなく、非認知能力と言われるような数値化できないような、目には見えない力というのが当然育まれていると思いますし、コミュニケーションを円滑に行うためのツールも日々の生活の中から身につけていけるのではないかと思います。

本日は、県議会議員の皆様と同じテーブルで同じテーマについて対話することを通じて、

自分自身の考え方を明確に伝える力を育んでほしいし、さらには自分の考え方を様々な考え方と照らし合わせて、よりよく変えるという勇気も必要だと思いますし、視野を広げて相手を理解する、そんな力をぜひ育んでほしいと思います。

最後になりますが、県議の皆さんと高校生の意見交換の場が充実したものとなりますよう祈念申し上げて、私からの冒頭の挨拶といたします。

本日は皆さん、どうぞよろしくお願いいたします。

(中川副議長)

ありがとうございました。

○ 出席議員の紹介、進行方法説明

(中川副議長)

次に、本日出席の県議会議員の皆さんを私から紹介します。

初めに、県議会の依田明善議長です。

(依田議長)

よろしくお願いいたします。

(中川副議長)

次に、向かって右側の広報委員の皆さんを紹介します。

広報委員会副委員長、自由民主党県議団の早川大地議員。

(早川議員)

よろしくお願いいたします。

(中川副議長)

改革信州の小林陽子議員。

(小林陽子議員)

よろしくお願いいたします。

(中川副議長)

新政策議員団の小林あや議員。

(小林あや議員)

よろしくお願いいたします。

(中川副議長)

公明党長野県議団の勝山秀夫議員。

(勝山議員)

よろしくお願いします。

(中川副議長)

日本共産党県議団の藤岡義英議員。

(藤岡議員)

よろしくお願いいたします。

(中川副議長)

次に、向かって左側の議員を紹介します。

自由民主党県議団の寺沢功希議員。

(寺沢議員)

こんにちは！よろしくお願いします。

(中川副議長)

改革信州の丸山寿子議員。

(丸山議員)

よろしくお願いいたします。

(中川副議長)

新政策議員団の奥村健仁議員。

(奥村議員)

よろしくお願いします。

(中川副議長)

公明党長野県議団の勝野智行議員。

(勝野議員)

よろしくお願いいたします。

(中川副議長)

日本共産党県議団の和田明子議員。

(和田議員)

どうぞよろしくお願いいたします。

(中川副議長)

以上でございます。

次に、本日の内容について若干説明いたします。本日の「こんにちは県議会です」の目的は、先ほど議長の挨拶にありましたように、高校生の皆さんに県議会の活動や県政への関心を高めてもらうということと、議員が高校生の皆さんの意見や考え方をこれからの私たちの議会の活動に生かすため、意見交換を行い県政に反映をしていきたいというものです。

前半は、この議場で皆さんからの意見発表をいただく「模擬県議会」を行います。後半は、会場を県庁講堂に移して、皆さんが発表したテーマについて、私たち参加している議員と自由に意見交換を行う「意見交換会」の2部構成になっています。

流れとしては、この後、第1部として、この議場において通常の本会議と同様に、依田議長に進行をしてもらいます。五つのテーマについて、演壇からそれぞれの皆さんに4分以内で発表をしてもらいます。今、皆さんが座っている椅子は、普段私たち議員が座っています。今日は、ぜひ議員になったつもりで発表してください。

演壇での発表が終了しましたら、会場を講堂に移します。第2部は、班ごとに分かれて発表したテーマについての意見交換を60分間行います。意見交換の進め方は、改めて第2部開始のときに説明をします。

意見交換終了後、班ごとに、生徒さん、それから議員、各お一人から感想などを発表していただくことになっています。最後に、議長から総括的な感想を言っていただいて終了となります。大まかな流れは以上です。

なお、本日の取組を広く県民の皆さんに広報するため、概要などについては、後日、県議会のホームページに掲載しますので、よろしくお願いいたします。

それでは、これから第1部の「模擬県議会」に移っていきます。

ここからの進行は、依田議長にお願いいたします。依田議長は、議長席へお着きください。そして広報委員、選出議員の皆さんは、それぞれ決められた理事者席にお移りください。よろしくお願いいたします。

【第1部】高校生による意見発表（模擬県議会）

(依田議長)

ただいまから、「『こんにちは県議会です』 模擬県議会」を開会いたします。

これより、本日の会議を開きます。

本日の日程は、「生徒が主体性を育む交流会」で議論をされた五つのテーマの発表であります。

次に、「生徒が主体性を育む交流会」で議論された五つのテーマを議題といたします。

各テーマについて、順次発言を許します。

最初に、「地域のかかわりと学校の統廃合について」であります。Aチーム。

〔Aチーム生徒 登壇〕

（Aチーム生徒 a）

私たちはAチームです。「地域のかかわりと学校の統廃合について」、私たちの考えを発表します。

まず、「地域との関わり」についてです。

現在、中高生は小学生に比べ、地域との関わりが弱くなっているのが現状です。その理由として、学校生活の中で、地域の方々と交流する機会が減ったことが挙げられます。その結果、地域の行事への参加のハードルが高くなっていると考えました。

しかし、地域との関わりが求められる場面は多くあります。そのため、日頃から地域との交流を深められるような機会が必要だと感じました。

また、地域によっては人が訪れる機会が少なく、過疎化が進んでいるという課題もあります。これらを改善するために、私たちは幾つかの案を考えました。

まず、地域との関わりが薄れている原因の一つとして、生徒側の意識にも問題があるのではないかと考えました。まずは、生徒一人一人の意識を変え、挨拶を積極的にすることが交流を深めるための最初の一步だと考えました。

また、生徒が主体となる地域を巻き込んだ企画を行うことで、生徒が地域を意識するきっかけをつくることができると考えました。さらに、この試みによって都市部から人を呼び込むことができれば、地域の活性化につながると考えています。

（Aチーム生徒 b）

松代高校は、来年度創立から120周年という大きな節目を迎えます。そこで、思い出に残るようなイベントを行いたいと考えています。この記念すべき年をただの式典で終わらせるのではなく、生徒一人一人の心に残る特別な思い出にしたいという思いがあります。

そこで私たちは、現在あまり使用されていない商業棟などの校舎を活用し、全校生徒を巻き込むような大型のイベント、かくれんぼや鬼ごっこなどを考えています。校舎全体を一つの会場として使うことで、学年やクラスの垣根を超えた交流が生まれ、松代高校の歴史との一体感を体感できる場になります。120年続いてきた松代高校の歴史を、これからの次の世代につなげていくために松代高校だからできるイベントを実現し、記憶に残る120周年イベントを行いたいと考えています。

（Aチーム生徒 c）

現在、私が通う伊那北高校と隣の伊那弥生ヶ丘高校は、統合により両校の長い歴史に幕を下ろすこととなります。伝統が失われてしまうのではないかという不安も、生徒の中から上がっています。

そこで、必要だと考えるのが、統合の前後に両校の生徒が交流を通して、互いに伝統を認めることです。単なる統合ではなく、人と人をつなぐ統合が必要ではないでしょうか。

また、校舎跡地等の活用や新校周辺の再開発についてなどの議論が市などでは進んでいますが、学生がなかなか参加してくれないというのが現状です。学校再編は生徒自身の問題です。なので、生徒が学生なりの視点から様々な意見を発言できるような場所づくりが必要ではないでしょうか。

(Aチーム生徒d)

この話し合いを通じて、私たちから議員の皆様に御提案があります。

私たちは、若い世代が地域社会とより深く関わっていくためには、自分たちの学校や地域の魅力を発信していくことが必要だと考えました。

そこで、県が主体となってイベントを開催していただいたり、地域で交流を深める場をつくろうとしている方々を支援する窓口を設け、サポートしていただくことで、地域の交流や助け合いがより盛んになる社会になるのではないかと考えました。

また、世代を越えた交流を地域で行うことは、災害時の被害を抑えることや地域の文化を守っていくことにつながると考え、この御提案をさせていただきました。

若い世代と地域がつながるきっかけづくりについて、前向きに御検討いただければ幸いです。

これで、Aグループの発表を終わります。御清聴ありがとうございました。

(依田議長)

次に、「高校生も巻き込んだ交通の将来設計について」であります。Bチーム。

〔Bチーム生徒 登壇〕

(Bチーム生徒a)

私たちBチームでは、長野県の交通の将来を検討してきました。今回は、「高校生も巻き込んだ交通の将来設計について」というテーマの提言を行います。

(Bチーム生徒b)

まず始めに私から、「地域内での交通」についてお話しします。

これは、私の住んでいる地域だけではないことですが、朝の電車の時間に駅に行きたいのにバスがない。駅からバス路線が利用しづらいといったことがあります。このような公共交通が利用しづらいという意見は、ほかの方々も持っているそうです。

内閣府の調査では、「公共交通に不満がある」とした人はおよそ68%でした。これに対して、補助金で赤字を補填する、ニーズに合わせて本数を増やすといったことをしても、持続可能かどうかは分かりません。運転士不足も心配です。しかも、そのニーズは年々変動します。少子高齢化が進む今、地域密着型の交通は、経済的にも乗客のニーズの観点からも持続可能になるように変わらねばならないと考えました。

そこで、A I オンデマンド交通の導入を促進したらよいのではないかと考えました。A I オンデマンド交通により、会社の業務を効率化できる上、利用したいと思ったときに利用できる交通本来の姿を維持することができると考えます。

また、導入の際には、主たる乗客となるであろう地域の方や学校へも利用の説明に来てほしいと思います。既に塩尻市などでも導入が進んでいますが、この動きをぜひほかの自治体へも広げていってほしいと考えています。

(Bチーム生徒 c)

二つ目は、「居たい」と思える駅空間を求めます。

その理由は二つあります。

まず、一つ目は、県内で高校再編が進んでいることです。今後はより広い範囲から高校生が集まる駅になると考えられます。そのため、これまで以上に多くの人が利用しやすい交通空間のデザインを再検討する必要があると考えました。

二つ目は、電車の待ち時間を有効に使いたいからです。私が利用している駅では、電車は1時間に1本程度しか来ず、また駅周辺の施設もあまり多くありません。そのため、待ち時間を有効に活用できていない現状があります。

そこで私は、学校近くの駅に施設を整備することを提案します。内容は、学生だけでなく、地域の方も利用できる施設です。このような施設が整備されることで、駅はただ通過する場所ではなく、「居たい」と思える空間になると考えます。

(Bチーム生徒 d)

僕は、諏訪地域の公共交通機関の現状を例に説明します。

まずは、電車の現状です。

夕方、中央本線の上り列車が茅野駅または上諏訪駅が終点となっている列車が多く、富士見方面に接続している列車がないため、原村や富士見町に住んでいる生徒は、一度下車し待たなければいけないことが現状です。

次に、バスの現状です。

岡谷市、下諏訪町、諏訪市の路線バスは休日でも多くの路線バスが運行していますが、茅野市、原村はほとんど走っていないのが現状です。また、平日も電車とバスの接続が良くないため、長時間待たなければならないことが多いのが現状です。

最後をお願いしたいこととしまして、都市部のみではなく、郡部の利便性についても検討してほしいです。主な移動手段が公共交通機関である高校生の意見を取り入れていただきたいので、検討する場に高校生を参加できるような体制をつくってほしいと思います。これは、諏訪地域だけではなく、県内全ての地域で設けていただきたいと思います。

(Bチーム生徒 a)

以上のことを、私たちは提言します。ぜひ、議員の皆さんには、よりよい長野県のために議論をお願いします。御清聴ありがとうございました。

(依田議長)

次に、「高校生ができる防災～二次災害 予防の視点から～」についてであります。Cチーム。

[Cチーム生徒 登壇]

(Cチーム生徒a)

これから、Cチームの発表を始めます。

高校生ができる二次災害予防の観点からです。背景として、二次災害が発生した主な理由が三つあります。一つ目は避難環境の厳しさ、二つ目が長期化する避難生活、三つ目が交通アクセスの遮断です。

また、能登半島地震の際、共助の不足が災害対応の遅れなどを引き起こしました。また、避難場所までの避難経路の確認不足や生活の困り事が多くなることが、二次災害を拡大させる要因になることが分かりました。

(Cチーム生徒b)

また目標として、「二次災害を減らすために何をすればよいか分かりやすく伝える」というのを目標にしています。

防災を楽しく学ぶことにより知識を定着し防災力向上のために、まず方法1として、ゲームやワークを通じ防災を楽しく学ぶ。方法2としては、防災イベントや学校で防災情報が掲載されているオリジナル防災カードなどを配布し説明する。カード内の情報を活用することにより、地域や学校での防災の理解を深めることです。また、方法3として、避難訓練に工夫を加えたり、マンネリ化を防ぎ、防災力を高めます。

また、外国人の方も含めて地域の方に避難所や防災情報を、防災イベント等で周知する。高校生が防災情報をSNSやイベント等で情報発信したり共有することで、防災の正しい情報を拡散する。学校と地域が協力し、「備える防災文化」を広げるなどが考えられます。

最後に提案となりますが、信州防災アプリやよりよい防災マップをSNSや防災フェスティバル等で広報と活用する方法の説明を行う。楽しく学びながら防災意識を高める。学校の防災教育で防災ゲームや防災ワークを行う。地域の人とのつながりを大切にし、共に備える。防災イベントなど、定期的に学校や公共施設で行っていく。また、災害が起きた際には子供の居場所づくり、特に子供のおもちゃや折り紙など、手軽に使えるものなどを入れていくことが大切だと思っています。また、子供や若者が地域での防災教育などに主体的に参加できる仕組みを整える。などを僕たちは提案し考えています。

御清聴ありがとうございました。

(依田議長)

次に、「高校と生徒会のあり方」についてであります。Dチーム。

[Dチーム生徒 登壇]

(Dチーム生徒 a)

これから、Dチームの発表を始めます。「生徒が主体性を育む交流会」においてグループD1とグループD2に分かれて話し合いをした内容をお話しします。

まずは、二つのグループで共通していた内容である校則についてお話しします。校則を変えたい、時代に合ったものにしたいという思いのもと、課題と対策を考えました。

(Dチーム b)

どちらのグループからも、先生方やOB・OGなどの伝統意識や地域の目を理由に、服装に関する校則改正がしにくいという課題が出ました。

対策として、他校を参考にデータが見える化し、反対意見の説得につなげることや、全校に意見を募り、明確な理由を合わせて要望を出すこと、一気に変えるのではなく、細かい点から少しずつ変えていくこと。ボランティアで学校の評価を上げるという意見が出ました。

(Dチーム生徒 c)

また、課題として、生徒会は1年交代なので、文化祭などの行事に力を入れたり引継ぎなどで校則についての話し合いをしたくても時間が足りず、なかなか話し合いが進まないという課題があります。それに対して、事前に学校で意見をまとめ、その意見に対して先生にリアルタイムで返答をもらえるようにする。ラグのない話し合いや引き継げる体制を整えるという対策が出ました。

(Dチーム生徒 a)

続いて、校則について以外のグループごとで話し合った内容を発表します。

(Dチーム生徒 d)

D1グループでは、「課外活動について」の話し合いをしました。課外活動は、地域の方との交流の場でもあり、新たなつながりが生まれるとても大切な場所だと考えています。そんな課外活動ですが、課題として2、3年生に比べて1年生の参加率が低いということが挙げられました。これは他学年との関わりが少ないという現状から生まれてしまっていると考えました。

対策としては、今ある学年のつながりを大切にして委員会などを活用すること。そして、学年を混ぜて体育祭を行うことなどです。

(Dチーム生徒 a)

続いて、「学校行事について」です。学校行事は、皆さん御存じのとおり、生徒、そして先生たちの御尽力が必要です。その一方で、自主性がないこと、そして生徒と先生の間に関わりが少ないことが課題として挙げられました。

その対策として、分からない、関われないをなくして仕事を細分化することで、一人一人

をスペシャリストにして、それぞれにしかできないことを設けて自主性を育むということ。そして、1、2年生も行事の実行側に回ってもらうこと。さらには、先生たちとリアルタイムで意思疎通が図れる場をつくるという対策を考えました。

最後に、「統合について」です。

課題として、統廃合によって、かつてあった学校の存在が忘れ去られてしまうのではないかと、また、合わさった学校の間で一体感が下がってしまうのではないかという意見が出ました。

その対策として、新しい学校名や文化祭の名前に両校の要素を入れたり、二つの生徒会を一つに考えて、どちらの学校の立場でも引継ぎができるようにしていくことが大切だと考えました。

以上が私たちの話し合いをした内容です。御清聴ありがとうございました。

(依田議長)

次に、「『かえること』と『のこすこと』」についてであります。Eチーム。

[Eチーム生徒 登壇]

(Eチーム生徒 a)

皆さん、こんにちは。Eチームです。「『かえること』と『のこすこと』」、どういう意味でしょうか。話を進めていけば分かることだと思います。

まずは、今回のテーマ「『かえること』と『のこすこと』」。

これがどういうことなのかというと、「かえること」というのは、今現在不満を持っていたりとか、問題があつてうまくいっていないことを変えていこうということと、「のこすこと」というのは、話し合いの中で出てきた統合について、残したいことをどうやって残していくのか、この二つに大きく分けています。

ディスカッションでの意見は、主に三つに分けられます。「文化祭」について、「発信」について、「校則」について、この三つになります。

では、一つ一つしっかり見ていきましょう。

まずは一つ目、「文化祭」。文化祭の話し合いで出たのは、まず予算の確保。予算が足りなくなってしまったとき、それをどうやって集めるのかという点です。まず、スポンサーを確保してみようと。スポンサーの確保というのは、「お名前を載せるので少しお金を支援してください」と言って地元の組織と提携してみたり、地元のものを使ったグッズ販売とか、ほかにもクラウドファンディングを試してみたりとか。あとは、文化祭の係は、仕事量に偏りが生まれてしまうので特別な委員会を設置することによって分散できると考えました。ほかにも、他校とのコラボレーションで、さらに活気づけていくのもよいと思いました。

二つ目、「発信」です。発信は外部と内部の両方に発信があつて、生徒の関心を高めるための内部への発信と、外部に学校を知ってもらうための発信や統合してしまうならば統合する前の様子をどうやって残すかという発信について、その二つについて、例えばSNSを利用してみたい、ドキュメンタリーとか物語形式にして見やすくしてみたりしてはどうかと

考えました。

三つ目、「校則分野」です。話し合いをすると出てくる校則分野ですが、無くすという方向に持っていってしまう人が多くいるので、それを緩和してみるとか。また、話す先によってはみんなで話し合った内容が無かったことにされてしまった例があるので、話す先はしっかり考えて、固めてから話したほうが良いと思いました。あと、アンケートは、生徒だけに取るだけでなく、先生や地元の人にも取ってみるというもの考えました。そして、組み込むとは、メイクというのは将来大人になっても使うもの。メイク禁止は結構ある話ですが、それを家庭科などの授業の課程に加えるというのはなかなか面白いアイデアだと思い、入れてみました。

まとめとして、今回私たちが提案したいのは「発信」。

発信分野をすごく大事にしたいと思っている。発信とは何かというと、「のこすこと」にしても、これから「かえること」にしても、知ってもらおうということがまず大前提。地元の人に知ってもらったり、先生にも知ってもらったり、現状などを発信するために何が必要かという発信する機材が必要になってくると思う。でも、その機材は、今の学校では支援などが難しいので、その発信分野に使うお金を県などからいただけないかと考えました。

これで発表を終わります。ありがとうございました。

(依田議長)

発表は以上であります。

発表のあった五つのテーマについては、この後の第2部において活発な意見交換をお願いいたします。

以上で、「『こんにちは県議会です』模擬県議会」を閉会いたします。

【第二部】意見交換会

○進行方法説明

それでは 第2部の意見交換会に入ります。引き続き進行を務めます副議長の中川です。

第2部はぜひリラックスして自由闊達な意見交換ができればいいなと思いますので、よろしくお願いします。

第1部で発表した内容をもとに、60分間意見交換を行います。班ごとに話し合うテーマを決めてありますので、それぞれ2つのテーマについて意見交換をします。おおよそ一つのテーマ30分を予定しています。進行は、各班の進行役の生徒さんに既にお願いをしています。

意見交換は結論を求めるものではありませんので、先ほど申し上げましたように、リラックスして活発な議論ができるようにお願いします。時間の目安としては、30分経過時と終了5分前になりましたら、事務局の方からアナウンスをすることになっています。

意見交換終了後、各班生徒さん、議員の各お一人ずつから意見交換を終えての感想を発表していただきます。この時間の目安は、生徒さんは3分、議員は2分と考えていますので、よろしくお願いします。以下、同様に、5班まで順番に発表していきます。進行方法については以上です。では、自己紹介から始めていただければと思いますので、まず議員の方から口火を切るような形で始めてください。それではよろしくお願いします。

【 意見交換 60分 】

○意見、感想等の発表

(中川副議長)

それでは、各班で話し合った内容の発表に入ります。それぞれ班ごとに、高校生と議員と合わせて5分という時間の中でお願いします。自分の席でその場で立ってお願いしたいと思います。

最初に、1班の発表の担当の生徒さん、お願いします。

(1班 発表生徒)

1班です。1班では、BチームとDチームの内容が入っていて、まずは校則について、そして先生との関わり方や理想の先生像について、そして最後に交通、地域の場についてという3点について話をしました。

まず、校則について。校則が基本なくて、生徒手帳もないという学校もあれば、ある程度校則があって、生徒手帳もあるという学校もあったりして、その学校の対比から話が始まっています。

県内では、結構制服がない学校も多い中で、制服がないと困ってしまう場合もあるよねということで、私服を着るときはTPOもある程度考慮しながら、良識の範囲内で着ていく必要があるという話になりました。

そして、校則の中で、「華美でない」、「高校生らしいものにしよう」など服装についての規定でよく聞く単語かなと思うんですが、そもそもそれってどういうものなのか。また頭髪とかピアスとかメイクなどが禁止されていて、先生たちから止められるということが何でなのか。しっかりとした理由がなく、先生たちから明確な回答が得られていないのではないのかというのが、一つ、生徒の抗議の声、反対の声として上がりました。

一回そういう校則を白紙にしてから問題が起きたときに対応すると、自分たちで考える力も身につくでしょうし、また校則のある背景を調べてみるとか、リアルタイムでかつラグのない話し合いを先生たちと展開することによって、お互いに分かり合いながら、よりよい校則や学校の在り方が目指していけるのではないのかという話になりました。

そしてその流れの中で、理想の先生像ということで、生徒に寄り添ってくれて相談のしがいがある、また相談するとき、先生と生徒である前に人と人である対応の仕方をしてくれ

る先生がいい。それから、生徒がやることをまず後押ししてくれて、自分が自信を積むのを助けてくれる。その中で、生徒が持っていない見方、先生たちにしかできない見方で締めるべきところを締めてくれるそんな先生がいいんじゃないかという話で、前半の話が終わりました。

後半の話です。後半、交通についての話は、駅周りが閑散としていて、にぎわいが少なく、利便性があまりないという課題から話が始まっていました。

「居たい」という駅空間をつくるために、今、その場、その地域にいる高校生が運営して、かつ責任者が大人であるユースセンターというものがあるんだよという話を議員さんからお聞きして、勉強したい人とそうでない人が住み分けできるような環境にしていけば、そして、高校生が有志団体として在籍期間を設けて、同じ人がとどまり続けない状態で、そういうセンターを運営していけば、勉強したい人とそうでない人の住み分けもできていいんじゃないかという話になりました。

そして、地域の人との関わりが絶対に生まれてくる中で、地域の行事に参加して、地域の人の手伝いをしていくことで、巡り巡って自分たちの要望実現につながっていくんだよというアドバイスをいただきました。

最後に、高校生という年代は少しずつ大人に向けて自由に近づいていく年代だと思うんですけども、その中で、自由の代償として責任なども伴ってくるから、そういうことも考えながら、交通や校則だけの話ではなくて、今後の生活を歩んでいく必要があるんだなということを考えさせられました。

以上が、1班での話し合いの内容です。

(中川副議長)

ありがとうございました。

続いて、勝野議員、感想をお願いします。

(勝野議員)

1班に所属させていただきました議員の勝野でございます。今日は大変ありがとうございました。

課題に向けて高校生の皆さんが、私たちにいろいろなお話をしていただきながら提案をしていただいたことに本当にすごいなと思いながら、自分の高校時代とは全然違って、偉いなとつくづく思ったところでございます。

今日いただいたお話の中で、学校というのは勉強に行くだけではなくて、コミュニケーションをとりに行く場でもあるというお話をいただいて、そうだよねと、みんなそう思っているんじゃないかと思いながら、ぜひ教育長を含め教育委員会にこの声を伝えたいなと思いました。

今日は、本当にためになるお声をいただきました。ありがとうございました。

(中川副議長)

続いて、2班の発表担当の生徒さん、お願いします。

(2班 発表生徒)

2班では、前半と後半で話が分かれていて、まず、災害についてみんなで話をしました。二次災害、二次被害という言葉の定義から話し合って、二次被害というのが今回ポイントだったんですけれども、精神的なとか身体的なとか、災害の避難をした後に体育館とかでプライバシーがなくて精神が削られてしまったり、子供たちの日常へ復帰するまでの時間をどうやって過ごすのかという話が結構ありました。

後半の話は本筋から外れてしまい制服の話をして、高校に入る理由を、制服がかわいいからとか、制服がないからとか、逆に制服があって楽だからと選ぶ人がいたりとか、個人個人の制服観があってすごく面白かったです。

県議会の皆さんも、年代によってどういう制服があったとか、お母さんから見た制服とか、生徒から見た制服とか観点がすごく面白くて、ほかには、健康的な生活という面にも視点を置いて話をしたんですが、高校生は結構夜ふかしをしがちですね。電話したり、ずっと勉強したりとか。班の一人は10時に寝て5時に起きて勉強したりすごく健康的な生活をしていて、ビタミンCを摂るとすごく肌がきれいになるということを学ばせてもらいました。

これで終わります。ありがとうございます。

(中川副議長)

それでは2班、和田議員、お願いいたします。

(和田議員)

2班と一緒に災害のこと、特に二次被害、二次災害のことも含めて前半はお話をしましたけれども、長野県の地形的には土砂災害とか、記憶にあるのは2019年の台風の水害などあって、そういうことから災害のときの避難の在り方も話をしましたけれど、自分たちが高校生として、若い力として、そういうときにどんなことに関われるかという話も少ししました。

普段から、いろいろな避難所に食料品や水などがどのくらいあるかも見ておかないといけないけれども、まずは自分で防災グッズを確認しようという話をして、「ああ、そうだね」と確認をしたところです。

そして今度は、「『かえること』と『のこすこと』」、このフリートークがすごく楽しくて、あっという間に時間が過ぎてしまいました。まず、化粧をどうするか。文化祭だったらいいじゃない、文化祭も駄目というところから、普段からOKだという学校と、4校の中でも全然校則も違うし、制服も違うし、発想も日頃の暮らしも全然違うというのが、交流できてとても楽しかったです。

先ほど、制服が学校を選ぶ選択の一つの目安、基準にもなっていたんだという話と、「制服があったほうが普段朝忙しいときに何を着ていくか迷わなくていい」というのと、「やはりいつも自分らしく着ていく」というのとそれぞれで、校則も、校則だからではなく、もう一回みんなで学校の中だけでなく違う学校の皆さんと話をすると、自分たちが思っていた

校則よりも違うこともできるということが分かって交流できてよかったなと思います。

いずれにしても、リアル高校生の生（なま）の話をこんなに楽しく聞かせていただいて、今日はいいい経験をさせていただき、ありがとうございました。

（中川副議長）

ありがとうございました。

次に、3班の発表担当の生徒さん、お願いします。

（3班 発表生徒）

僕らは、交通についてと暇つぶしの施設、それと発信について、前半後半に分けて話し合いました。

まず、交通についてです。交通は、松代でもそうですが、まず本数が少ないという点について話をしました。松代は、屋代線や須坂線があるけれども、4時間に1本とか、3時間に1本しか来ないことが多く、帰る時間が分からないとか、放課後にどうしても暇ができてしまうことがあって、それをどうしたら改善できるかという話し合いをして、それについて、暇つぶしの施設があったらいいんじゃないかという意見がありました。

暇つぶしの施設というのは、駅舎や駅の近くにある施設を改修して、地域の方々と触れ合えたり、話し合えるような場所をつくって、子供たちと関わったり、お年寄りと関わったりしながら自分も楽しんでやっていく、みたいな話をしました。

次に、イベントについて話し合いました。イベントは、自分の高校の話ばかりになってしまいましたが、松代高校は普通科と商業科があって、普通科と商業科の人が授業をする棟と、先生たちがいる管理棟と、商業棟という三つの棟があります。しかし、商業科の生徒があまりいないこともあり商業棟が使われていない状態で、倉庫化し物があつたり、埃があつたりしている。その棟を使って何か全校を巻き込むような、そして地域の方々も来られるようなイベントをつくって、生徒たち、そして高校生や地域の方々に関われるような、そんな場所にしたいと思いました。

そして後半部分で、発信について話し合いました。発信について、よく皆さんが使っているLINEとか、インスタグラムなど、投稿できるサイトが話に出ましたが、一番この班で盛り上がったのは、中野市のVTuberの話で、VTuberが自分の地元を発信して魅力を伝えています。人によっては興味を持ってVTuberを見る人もいると思う、魅力も伝えやすいし見やすいと思う、という意見もあつたので、自分たちが身近なものを使って地元の魅力を伝えていくといいという話になりました。

終わります。ありがとうございました。

（中川副議長）

それでは3班、奥村議員、よろしくお願いいたします。

（奥村議員）

皆さん、こんにちは。本日は、このような機会に参加させていただいて、本当にありがとうございました。

まず、議場で皆さん方からの提案をいろいろ聞かせていただいて、一番びっくりしたのは、いろいろなところで、行政の言葉で「自助・公助・共助」という言葉が出てきて非常にびっくりしました。我々もなかなか分かるようで分かっていないんじゃないかなと思うところですが、話し合いの中でも、自分たちがやるべきこと、仲間をどう引き込みながら次に進むこと、どうしても駄目だった場合に公を使う公助、いわゆる行政のお金を使う。そんな話し合いができたのかなと思います。

自分たちで何かをやらなければいけない、やりたいときに、まずこういうことをやり始めて、仲間を募って、その後というような、そんな発想ができるんだなと今回は感じさせていただきました。

今、発表をしていただきましたけれども、それぞれのテーマで、それぞれ面白い意見を聞かせていただきました。私もいただいた意見をしっかりと理事者の皆さんに伝えていかねればいけないと思うことも二つ三つといただきましたので、今後、私の議員活動にもしっかりと反映させていきたいと思います。

しかしながら、先ほど勝野さんが言ったとおり、高校時代何も考えていなかった自分がいたなというのは反省をするところです。

本日はありがとうございました。

(中川副議長)

次に、4班の発表担当の生徒さん、お願いします。

(4班 発表生徒)

僕たちは、公共交通についてのことと、高校と生徒会の在り方についてのグループでしたが、公共交通の話が盛り上がってしまいました。話として出たのが、茅野駅の上り列車の本数が少な過ぎて、しかも上下線同着の列車が多いため、ロータリーに送迎の車があふれかえってしまい、近くにあるバスターミナルにまで伸びてしまったことなどや、南信地方では、飯田線に無人駅がとて多いため駅の居場所などについて、話が出ました。編成両数も少ないため飯田線では2両の列車が多く、時間帯によっては満員で乗り切れないことが起きたり、諏訪地域でも、下諏訪駅で乗って上諏訪駅で降りる生徒が多く一部の時間帯では乗り切れない事態も起きたりしているので、もう少し時間帯に見合った車両編成で来てもらいたいと意見が出ました。

これで終わりにします。

(中川副議長)

ありがとうございました。

4班、丸山議員、お願いします。

(丸山議員)

今日は高校生の皆さんとお会いできて、そしてたくさんの御意見を伺えて本当にうれしく思っております。

私たちの班は、先ほども言ったように、学校についての話もしたんですが、やはり交通が非常に切実に大変だということを聞きまして、何とかしなければと思った次第です。今、南信地域の諏訪方面ですとか伊那・飯田方面の切実な話がありましたけれども、本当に本数が少ない。そして、今発表してくださった方は下諏訪なんですけど、もっと茅野の先まで行く方たちの心配もしています。そして、高校生が一番利用する16時台の電車が少ないということを書いていまして、そういった情報を、私たち大人が議員だけでなく共有していかなければいけないということを、本当に強く強く感じたところです。

そしてもう一点、新しく須坂にできました大型ショッピングセンター。できてまだ何か月かですので、これからまた対策を考えなければと思うのですが、高校生の皆さんが帰ろうとする時間帯にアルバイトなどの皆さんも同時に大勢いらっしゃって、高校生の皆さんがバスに乗り切れなくて次のバスを待っているそうです。そんな話を聞いて、本当に何てことだろうと思いました。うまく整理をして、あるいは増便ができるならして、何とかやりくりして過ごしている貴重な時間を、有益に使えるように私たち大人が何とかしていかなければ、声を出していかなければと思います。

今日の交通の問題も、こうした大型施設が新しくできたメリット・デメリットもあるわけですが、高校生の皆さんの意見を私たちが吸い上げて、また高校生の皆さんがどこかで発表できるような、伝えられるような、そういう機会が欲しいなということを強く思いました。

今日はありがとうございました。

(中川副議長)

ありがとうございました。

次に、5班の発表担当の生徒さん、お願いします。

(5班 発表生徒)

私たち5班は、「防災と減災」と「『かわること』と『のこすこと』」について話し合いました。

最初に「減災・防災」について、小さな子供と高校生のことに焦点を当てて話をしました。一つ目に、高校生の役割ですが、掃除や力仕事などができるといことが多く出ました。二つ目に、小さな子供たちについて話したところ、グラウンドや体育館を使って遊んだり、図書館などを使って小学生などに勉強を教えることができるとい意見が出ました。

次に、「『かわること』と『のこすこと』」について話しました。校則と統合による名前や伝統的なものをどうするのか、について焦点を当てて話をしました。

まず、校則についてですが、時代に合った校則やTPOに基づいて変えていくべきだとい意見が出た後に、塩尻志学館高校の具体例として署名活動をしたが実現しなかったとい話があったので、地域の人も参加して話し合っていくべきだとい意見が出ました。その後、

統合について話したところ、お互いのいいところを取り入れていくべきという意見が出たり、逆に、議員から小学校みたいに少人数にして統合するのではなく全て残すことが名前も伝統も残るという意見が出て、深く考えさせられました。以上です。

(中川副議長)

ありがとうございました。

それでは、寺沢議員、お願いします。

(寺沢議員)

皆さん、本日は御苦労さまでした。議場でもそうですし、またこの場でもそうですが、本当にみんな、こんなに大勢の皆さんの前で、よくしっかりしゃべれるなと思って、私は今本当に緊張していて、こういうのは苦手なものですから心臓がバクバクでいるんですけども……、いるんですよ。

こういうグループディスカッションのときも、本当に皆さんが問題意識を持っていて、しっかりと自分の意見を持って発表してくれる。様々な新たな課題にもしっかりとその場で考えてすぐ言葉にできるということで、50歳を過ぎていまだちゃらんぽらんの私と藤岡議員は感心しっぱなしでありました。素晴らしいなと思いました。

特に、先ほど発表がありました、校則のことについて、具体例で、ぜひとも校則を変えたいと、生徒会で署名活動をして、その署名を学校に提出したと。そういう素晴らしい行動をしたにもかかわらず、その後学校からは何の音沙汰もないという状況をお聞きしまして、藤岡議員の目が光ったところであります。

何かあったら言ってくれという言葉がありましたので、藤岡議員や私も一緒に行ったりして、ぜひとも学校側は、生徒の気持ちに応えていただいて、話し合いの場を設けて一緒によい方向に進めていただけたらと思いました。

いずれにしても、高校生の皆さんが、課題・問題意識を持っていて、その課題解決に向けてしっかり考えているというこの状況を見て、私たちも議員も、県民の皆さんの安心・安全、そして豊かな暮らしのためにしっかりと働いて、皆さんのサンタクロースのような立場になっていかなければいけないなと思ったところでございますし、藤岡議員ともそのような話をしたところでございます。

ぜひとも、今日頑張った高校生の皆さん、参加していただいた高校生の皆さんに、来週24日の夜には、サンタクロースがすてきなプレゼントを持ってきてくれることを心から願っています、私からの感想といたします。本日は御苦労さまでした。

(中川副議長)

ありがとうございました。

それでは最後に、依田議長から全体の感想と御礼の御挨拶を申し上げます。

依田議長、お願いいたします。

○ 長野県議会議長所感

(依田議長)

今日は、皆さん大変お疲れさまでございました。今日、私はもう最初から感動の連続でありまして、まずお昼、そこで2人の男子生徒さんと食べたんですけども、将来の夢はと私が聞きましたら、牛飼いにになりたいという答えでした。畜産業ということです。今この県議会でも畜産業の危機ということで、大変議論的になっている、人手不足だとか、いろいろなことで問題になっているんですけども、牛飼いにになりたい、乳牛を飼いたい、そういう経営者になりたいという言葉聞いて本当に感動しました。立派な経営者になっていただきたいと思います。

もう一人の方に聞きましたら、学芸員になりたいということで、将来は歴史研究をしたいということ。特に近現代史を一生懸命学びたいということで、明治維新から第二次世界大戦、それから戦争に負けて東京裁判にかかるところをもう少し研究したいというようなお話をいただきまして、これも本当に感動いたしました。すごいことを考えていらっしゃるんだなということで、ぜひ頑張ってくださいと思います。

それから、議会での意見発表ということで模擬県議会をやったわけですが、本当に明日から即戦力で使える人たちが非常に多かったと思います。堂々としていて、先ほどの話にもありましたけれども、あの場面で堂々と発表ができるということは素晴らしい才能だと思いますので、ぜひそれを磨いていただいて、国会議員、県議会議員、いろいろな議員になっていただきたい、あるいはまた首長になっていただければありがたいと思いました。

それから、意見交換の中で、先生と生徒の関係はどうあるべきかということだったんですが、どういう先生が理想ですかという質問の中で、やはり人対人、例えば自分のお父さんやお母さんと同じような気持ちで接してくれるような先生がいいな、あるいはまた、思い切って自分の思ったことをやってみると、ドンと背中を押してくれるようなそういう先生が理想ですというお話もあったわけです。

あと、高校生を巻き込んだ交通の将来設計ということで、これもいろいろな話が出たわけですが、例えば、ニーズに鑑みた地域交通ということでオンデマンドの話が出たわけですが、その地域に合わせた運行をやってもらいたい。そして、そういう交通政策の議論の中に我々高校生も交えてほしいというような意見も出ましたので、ぜひそんな場面もつくるのができたらいいかと思いました。

それから、駅の2階だとか、空いた空間の利活用ですが、そういうところで高校生の皆さんが勉強するスペースなどがあればいいかなということ。もう一つ大事なのは、例えばブリクラだとか、カラオケだとか、そういったことを楽しむ場所も欲しいということ。やはり静かに勉強する場所と羽目を外したい場所、そういったことがごちゃごちゃになってしまうとどうしても不都合が出てくるので、そういったところを分けることができれば、若い人たちも楽しむことができる、あるいはまた勉強にいそしむことができるということで、そんな空間を作ってもらえたらありがたいというお話もありました。

そして、私が一番うれしかったのは、こういう会がもっともっとたくさんあってほしいと

いうお話が最後にありました。涙が出るほどうれしかったわけですが、これでこの準備をした皆さんの御苦勞が報われたのではないかと思います。その言葉を聞くことができて本当に良かったと思います。

いずれにいたしましても、コミュニケーション能力が非常に高い皆さんが今日はいっぱいいらっしゃったということで、私も本当に勉強になりました。今日は家に帰って反省したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

ということでございまして、日本の将来は明るいなど、長野県の将来は明るいなど、そんなことを、今日私は確信いたしました。本当に皆さん、ありがとうございました。お疲れさまでございました。

○ 閉 会

(中川副議長)

本当に長時間にわたり御参加をいただきありがとうございました。議長の話にもありましたように、今皆さんは高校1年生とか2年生ですから、16歳、17歳ですね。25歳になれば県議会議員になれるので、ぜひ10年後にはあの演壇に立つ方が生まれることを大いに期待をして終わりにしていきたいと思います。

以上をもちまして、「『こんにちは県議会です』高校生との意見交換会」を終了いたします。本日はお疲れさまでした。